

平成25年度 学校自己評価シート 上田市立北小学校

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価			
花とみどりと笑顔の学校 ～ あふれる あいさつ	1 なかよく … よさを生かし合い、心をつなぐ子ども		恵まれた環境に加えて「外遊びの日」を導入したことと、長年培われてきた勤労体験・行事の場に加えて、従来以上に地域の力を取り入れたことで、意欲的に登校してくる児童が多い。児童一人ひとりについて、複数の職員が連携して支援をしてきた。より主体的な学び合いができるように指導力向上が課題である。			
	2 かしこく … よく聴き、深く考え、豊かに伝え合う子ども					
	3 たくましく … 進んで身体を鍛え、懸命に働き、やり遂げる子ども					
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策	
開かれた学校づくり		支援ボランティアが入る活動や来校者の数が増加。外部コーディネータと連携し次年度の体制づくりをした。	A	準備してきた地域の方を講師としたクラブ活動の運用。さらに様々な方に支援していただける体制づくり。		
1 個を大切にしたい児童理解と支援（なかよく）		複数の職員がたえず児童に関わり、相談し合いながら、支援にあたっている。	A	児童が様々な友だち・大人と触れ合う場を設けていく。教師が児童と向き合う時間が増えるよう変更した日課を活用。		
2 自ら学ぶことができる授業（かしこく）		ねらいの明示と活動にめりはりをつける点で向上。教えようとして、教師が必要以上に出る点が課題。	B	指導主事についての学年研究を行い、全員が年に2回以上公開。全校共通で取り組む話す聞く活動の規準を意識した授業。		
3 心や体の育ちを大切にしたい教育活動（たくましく）		行事・花作り・外遊びに夢中になって取り組んでいる。欠席も少ない。落ち着きのある廊下歩行が課題。	A	目標達成のために、どのように取り組むのか、全校で取組の実際を具体的に示し合い、意識を高めていく。		

領域	重点	評価項目	評価の観点			
学 校 教 育	個を見 大切に 解した 支援	よりよい人間関係づくり	教師は、友だちと互いの考えの違いやよさを認め合い、誰もが安心していられる集団づくりをしている。	友だちの様々な発表・発言を受け入れる雰囲気がつくられている。	B	様々な大人が遊びや学びの場がかかわる機会を増やし、有効活用していく。
		幅広い交友関係	教師は、様々な友だちとかかわり共に活動する喜びを感じられるような活動を行っている。	ペア学級等の交流活動や学年全体で取り組む活動が充実している。	B	学級の枠をはずした活動を、学年行事に加え3年以上の算数等で行う。
		個に応じた適切な支援	教師は、学習や諸活動における一人一人の取り組みを把握し、適切な評価をし、複数の職員と協力して適切な支援や援助を行っている。	学年、特別支援教育担当、外部専門機関と連携して幅の広い支援ができていく。	A	保護者の理解を得て、支援にかかわる関係者を広げ、様々な状況に対応できる体制を築いていく。
		心の相談の充実	教師は、児童や保護者の話したいことや困っている状況・悩みに気づき、話を聞いたり、悩みの相談に対応したりするように努めている。	「外遊びの日」の新設で、休み時間等に児童との対話の機会が増えた。	B	教師が児童と向き合う時間が増えるよう大幅に見直した日課を有効活用する。
	自らが 学で ぶこ と授 業	子ども主体の授業	教師の指示説明は短く分かりやすい。教師は、子ども達が自分らしさを発揮して表現する姿を引き出す工夫をしている。	ホワイトボードの利用やペア学習の取り入れ等の工夫が広がっている。	A	経営案発表・職員会議での提案等も意識すべき場として磨き合う。
		学習のねらいの明確化	教師は、その授業で学習するめあてや内容は何か、児童にはっきりわかるようにしている。	児童95%、保護者99%が、肯定的な評価。	A	「信州 Basic」を活用し意識付け、日々の授業での実施状況を教案訪問で確かめる。
		共に考え追究する場の設定	教師は、学習の形態を工夫して、共に学ぶことのよさを児童が感じられる活動・場面を入れている。	ペアやグループでの話し合い活動を取り入れる授業が多くなってきた。	B	話し合い活動充実のため児童が身につける事項を共有し、児童の姿で検証する。
		ねらい達成の見とどけ	教師は、授業のめあてを達成できたかの確かめをし、達成状況に応じた指導をしている。	自分の考えをまとめさせて、評価することが多くなった。	A	十分達成した児童が多い場合の指導の仕方や内容についても学年会で考え合う。
		家庭学習の充実	「家庭学習の手引き」が活用され、習慣化や授業内容の定着等を図るような働きかけが学校からなされている。	取組の習慣化やその時々学習内容の定着には成果があがってきた。	B	単純な復習一辺倒にならないよう、内容を学年会で検討。中学とも連携して示す。
		心や大 体切 に育 した を活 動	あいさつのあふれる学校	いつでもどこでも誰にでもあいさつができるよう、様々な働きかけがなされ、教師自らも率先して取り組んでいる。	高学年から先によくなくなった。来客への挨拶が課題。	B
働く活動への意欲	栽培活動、清掃、児童会活動など、仕事に主体的に責任をもって取り組む経験ができる指導がされている。		花作りと膝付きのぞうきんがけが特によくなっている。	A	見返しの場を工夫し、取組のよさを感じられるようにする。	
情操豊かな子どもの育成	行事・諸活動で、めあてをもつ、がんばったことや感謝の気持ち等を取り上げる指導がされている。		その行事を通して「どんな自分になりたいか」の目標設定ができた。	A	音楽会・運動会、それに匹敵する目標となる諸活動を学年や学級で決め出す。	
日々健康的にすごせる子どもの育成	外で遊ぶこと等がすすんでできるような働きかけがなされている。		水曜日の「外遊びの日」が新たに位置付き、他の日時もよく遊んでいる。	A	外部の方の力も借り、教師も一緒になって遊んだり声がけをする。万歩計の利用。	
学校運営	情報の発信	学校から、その時々取組の意図や児童の育ちの具体などが、ホームページや各種のたよりで、必要十分に発信されている。	新しい取組や運動会の種目についてねらいや願いを説明した。	B	活動の意図を知らせ、保護者の意識啓発を図る通信を定期発行していく。	
開 か れ た 学 校	地域に学ぶ活動・キャリア教育の推進	学校では、地域の多様な素材・人材と積極的にいかかわり、地域への誇りや生き方を学ぶ学習が行われている。また、PTAや地域のもてる力を、教育活動の充実や子どもたちの安心安全確保のために十分活用している。	PTAや「笑顔まもり隊」など従来の方々に加え、民生児童委員や市教委生涯学習課の方にも力添えいただくようになった。	B	5・6年の職場体験学習を核として地域の人の営みに焦点をあてた「ふるさとふれあい学習」に低学年から全学年で取り組む。クラブ活動の外部講師活用。	
	地域の人材・ボランティアの活用による教育の充実					